

2回目のワクチン接種を控えて 安心を考える

明後日、新型コロナウイルスの2回目のワクチン接種を受けることになっている。約3週間前、自衛隊による大規模接種会場で受けた1回目は、さすが我が自衛隊と思わせる丁寧でしかも手際の良い仕事ぶりだった。接種翌日にわずかに腕の腫れを感じたが、以前に受けた肺炎球菌ワクチンよりずっと楽。TVでは二度目の副反応が酷いと報じているが、少し騒ぎ過ぎではないだろうか。

開発から実際の接種までの期間が短かったために安全性評価に不安を持つ人が多いのも理解はできる。でも、メディアがその不安を煽っているように思える。

むしろ、国産ワクチンや治療薬の開発に後ろ向き、あるいは及び腰であるかのようにすら見える我が国の厚生労働省は他のどの先進諸国より慎重だった。

そもそも、コロナ問題でとかくそれを危惧して国民に自粛を迫る際の決まり文句である「医療体制の崩壊」は、新型コロナウイルス感染症を「指定感染症」のうち「入院勧告」のできる「2類相当」に分類したことにある。海外と比べて感染者数だけで

なく重症者数も死亡者数も桁違いに少ない我が国。安倍元総理が退任会見で敢えて発言した新型コロナウイルス感染症をより危険度の低いインフルエンザなどと同じ5類への変更を呼び掛けていたのに、それはどうなってしまったのだろうか。ネットなどで見ると厚生労働省内でもそういう話が進んでいたというのに。誰がそれを阻んでいるのか。

メディアとそれに雇われた「専門家」が商売と居場所作りのために不安を煽り続けているのではないか。確かに、6月下旬から全国レベルの感染者数は横ばい、あるいは増加傾向にある。また、デルタ株の変異株への感染者が増えているともいわれる。

その一方で、NHKによれば7月4日時点で少なくとも1回以上ワクチン接種をした人は3800万人を超えているという。重症化が危惧される65歳以上の高齢者では65・86%が1回目の接種を済ませており、33・87%が2回目を済ませている。

海外でのワクチン接種の効果を見てみると、仮に1回の接種であっても感染者は増えることがあっても重症者や死者数は減っている。ワクチ

ンの効果は確実なのである。

以下は唐木英明氏の受け売りであるが、オリンピック開催に伴うデルタ株の海外からの侵入や国内感染拡大があったとしても、同時にワクチン接種も増えていくわけで、懸念される高齢者の「命を守る」コロナ対策の基本は目途が立っている。そして唐木氏の言葉を引用すれば、「にもかかわらず、こんな明るいニュースを一切伝えず、ひたすら『リパウンド』『デルタ型』『五輪で感染拡大』と恐怖を煽り続ける専門家とメディア。彼らは何を考えているのだろうか？ 感染防止が自己目的化して論理的思考ができないのではないだろうか？」（6月27日唐木氏Facebookより）

野党やメディアは政権批判のためにコロナ不安を煽り、オリンピックに限らず、何でもコロナ感染拡大にこじつけるばかり。

農業問題や食品安全、あるいはワクチンへの不安を煽る専門家とそれを利用する運動家たち。コロナワクチンが出てきて思うのだが、遣伝子組み換え反対派は組み換えにより開発されたワクチンを接種しないのだろうか、聞いてみたい。世の中にゼロリスクはないが、我々は科学的に十分なリスク管理が行なわれているかを判断するしかないのである。

江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。まったく管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。